天安工業専門大学との国際交流報告

山本行雄*1・永藤壽宮*2・新保良明*3・岡田　学*4・近藤　正*5

Report of International Goodwill Exchange Program with Cheonan Junior Technical College

Yukio YAMAMOTO, Toshimiya NAGATOH, Yoshiaki SHIMPO, Manabu OKADA and Tadashi KONDOH

キーワード：国際交流，韓国，天安工業専門大学，長野工業高等専門学校

1．まえがき

長野工業高等専門学校(本校)では，1996(平成8)年1月18日に韓国天安工業専門大学と学術交流に関する協定書を締結し，国際交流を開始した．高専が国際交流を通じて，その発展を図ることは既に必須の時代になっている．今年度(1997年)本校から天安工業専門大学を訪問して，第2回交流会を実施したのを機会に，今後両校の相互交流がさらに活発になることを期待して，これまでの両校の相互交流の概要を報告する．

2．学術交流の開始

2-1　交流書締結までの経緯

本校では，1995年初期から当時の森粛(前)校長および佐野秀則(前)事務部長が国際交流の必要性を唱え，提携校を募っていた．この時期に名古屋大韓民国(韓国)領事館宋基源領事より，佐野前事務部長宛に，韓国の天安(Cheonan;チョナン)工業専門大学が国際交流の希望をもっているので，応じてもらえるかどうか打診があった．宋領事に仲介を依頼して，相互の調査を行い，互いに表1のような日程で相手校を訪問した結果，学術交流協定が締結されるに至った．学術協定書の全文を表2に示す．

本校が天安工業専門大学を国際交流の相手校として選んだ理由に次があった．

(1)韓国における工業専門大学は日本の工業短期大学に相当し，高専の上級生と同年齢であり，共通の話題が多いと考えられること．

(2)共に国立の工業系学校として，交流の体制が取り易いこと，また教育と研究において互いに参考になる点が多いと考えられること．

(3)日本と韓国とは距離的に近く交流がしやすいこと，また両国における多くの歴史から友好を深めることに意義があること．

(4)外国の学校と交流を行うことは本校の学生・教教職員の国際感覚の育成に役立つと考えられること．

本校では，1995年5月26日の運営委員会において，天安工業専門大学との交流を積極的に進めていくことが確認された．その後，両校の相互訪問を経て，1995年12月1日の運営委員会において，交流

表1　学術交流書締結までの相互訪問

日　程	訪問概要	訪問者
1995年 8月30日 ～9月2日	本校より天安工業専門大学を訪問	森　粛(校長) 他2名
1995年 11月7日 ～10日	天安工業専門大学より本校を訪問	申永植(学長) 他2名
1996年 1月17日 ～19日	天安において学術交流協定書調印	森　粛(校長) 他2名

*1　電子情報工学科　教授
*2　環境都市工学科　助教授
*3　一般科　助教授
*4　機械工学科　助手
*5　学生課　課長
原稿受付　1997年10月31日

開始が決定された．天安工業専門大学においても本校との交流について同様に判断されたようであり，調印に至るまで，順調に手続きを進めることができた．

2－2　天安工業専門大学の概要

交流先の天安工業専門大学の所在地天安市はソウルの南約100kmにある地方都市で，人口は長野市よりやや少ない約30万人である．

韓国では，第一次経済開発５カ年計画に対応して，中学校卒業生に技術教育を行う目的で，修業年限５年の実業高等専門学校が1964年に発足した．これは日本の高等専門学校の発足とほとんど同時であった．その後，高等学校卒業生に対する技術教育の必要性が高まったことや，短期高等教育が必要であるなどの判断から，1970年より高等学校卒業生を受け入れる修業年限２年(韓国の設置基準では２～３年)の短期専門教育を行う専門学校として新たな発足をした．さらに，1979年には短期高等教育機関を充実させるために，修業年限２年(設置基準では2～3年)の専門大学として組織変更された．韓国の専門大学の状況を表３に示した．現在，専門大学の数は135校にのぼっているが，そのうち天安工業専門大学は工業系ではただ１校の国立工業専門大学であり，他は公立または私立である．なお，韓国の教育制度は日本と同様に初・中・高の修業年限は6・3・3年であり，その上に４年制大学校(大学)または修業年限２～３年の専門大学(短期大学)が設置されている．

天安工業専門大学の沿革を表４に示す．1973年の開校当時２学科であったものを順次学科増設を行い，現在は14学科に拡大されている．韓国の専門大学は実技教育に重点を置いており，設置学科は日本に比較してかなり具体的であり，また多岐にわたっている．表５に天安工業専門大学の設置学科を示す．この中で溶接技術科は韓国でただ一つの学科である．

また，教職員組織は表６である．単純な比較をすると，教官１人当たりの学生数(=学生数/教官数)は天安工業専門大学21.5人，本校12.8人である．また，事務官１人当たりの学生数は天安工業専門大学36.7人，本校17.2人である．授業の持ち時間数は，講義も実技も全て１人が担当するものとして単純計

表２　学術交流協定書全文

日本国長野工業高等専門学校と大韓民国天安工業専門大学との学術交流に関する協定書

日本国長野工業高等専門学校長と大韓民国天安工業専門大学長は，両校の教育・研究上の協力及び交流を発展させるために，ここに学術交流に関する協定書を作成する．

1．両校は，双方の自主性を尊重するとともに，平等互恵の原則に基づいて，次の活動を行うものとする．
（1）学生の交流
（2）教官及び研究者の交流
（3）学術資料，刊行物及び学術情報の交換
（4）共同研究活動
2．前項の活動を行うに当たっては，双方の協議を経て，実施計画を定めるものとする．
3．この協定書の改正又は廃止は，双方の協議と合意に基づくものとする．
4．この協定書は日本語及び韓国語で作成し，両文書は等しく正文とする．

1996年 1月 18日

長野工業高等専門学校(日本国)
校　長　森　　肅
氏名　（署名）＿＿＿＿＿＿

天安工業専門大学(大韓民国)
学　長　申　永　植
氏名　（署名）＿＿＿＿＿＿

表３　韓国の専門大学の変遷と規模[1)]

名　称	発足年度	全体規模
実業専門学校	1964	9校 23学科 953名
専門学校	1970	26校 115学科 2,887名
専門大学	1979	127校 625学科 78,455名
(専門大学)	(1994現在)	135校 1,709学科 381,030名

表４　天安工業専門大学の沿革

年　月	概　　要
1972年12月	公立天安工業専門学校設立認可
1973年 3月	天安工業専門学校開校および入学式 (機械科，電気科の２学科)
1979年 1月	天安工業専門大学に改編認可
1982年 3月	国立に移管
1995年12月	学校規模14学科 学生定員1,120名×2学年

算すると，週当たりの授業時間数は教官１人当たり，天安工業専門大学7.8時間，本校12.6時間であり，教官１人当たりの学生数とは逆転している．これは，天安工業専門大学では本校の２倍の学生が同時に授業を受けていること，および，開設時間数の差によるものである．

表５　天安工業専門大学の機構

区　分	内　　容	備　考
行政機関	教務課 学生課 実習課 庶務課	各課長は教授兼任
学　　科	機械科，　電気科 電子計算科，　金型科 制御計測科，　溶接技術科 熱処理科，　工業化学科 工業デザイン科，　電子科 建築科，　土木科 自動車科，　情報通信科	１学年定員各学科共80名
付属機関	図書館 電子計算所 寄宿舎 学報社(新聞発行) 産業技術研究所 学生生活研究所	

備考1）制御計測科はコンピュータ技術科(1984年設置)を1993年に改組した．

備考2）電子計算科は天安工業専門大学要覧ではDept. of Computer Programmingと英訳されており，カリキュラムも英訳の内容に近い．

表６　天安工業専門大学教職員構成[2)]

区　分	職　名	定　員	現　員
教　員	学長	1	1
	教授	88	28
	副教授		19
	助教授		22
	専任講師		10
	助教(助手)	15	14
	(小計)	(104)	(94)
一般職(事務)	事務官	1	1
	主事	9	9
	事務職	51	49
	(小計)	(61)	(59)

授業時間数は，各学科共，開設単位数93単位(授業時間数118時間)である．単位は１年次に多くを取得すれば，２年次にはかなり余裕が持てる構成になっているが，韓国では就職に際して資格の有無が大きく影響するため，ほとんどの２年生は資格取得のための勉強に専念するようである．就職が好調な一つの理由として，学生が在学中に多くの資格取得をしていることがあげられる．なお，申永植 (Shin Young-Shik) 学長によると，韓国では実技の訓練ができている者の方が理論を学んだ者より企業の人材として需要が多いため，工学部においても４年生大学(大学校)より工業短期大学(工業専門大学)の卒業生の方が就職は有利である．したがって，工業専門大学から大学への進学希望はほとんどない，ということであった．

なお，韓国の学期は３月に新学年が開始し，２月で終了する．天安工業専門大学は２学期制をとっており，最近の入学試験競争倍率は約６倍であり，志願者は韓国全土から集まっている．また，単位は講義科目は50分授業を16回行って１単位，実技・演習科目は32回で１単位を認定している。

天安工業専門大学では次のような技術者の育成を目的としている[1)]．

(1)職場において信頼され，勤勉である誠実な技術者．

(2)職業上の倫理に従う協調性のある技術者．

(3)自主的にして創造力のある技術者．

３．第１回学術交流会の実施

第１回学術交流会は天安工業専門大学の希望によって本校で実施された．交流会の実施概要は表７，表８のとおりである．本校からの出席者は，学生10名(５年生各クラス２名)に加えて，校長，部長，主事，各学科主任，５年担任教官，課長であった．交流会は友好的な雰囲気で行われた．本校学生による，長野高専紹介には沢山の質問が出された．韓国の学生の積極的な発言に対して本校学生が気後れする場面もあり，両国の学生の気質がそのまま表れた場面もあったが，お互いの交流を深めるのに有意義な交流会となった．

翌日は同じメンバーで市内施設見学と観光が行われた．学生同志はすっかり親しくなり，なごやかに交流が行われ，同日夕刻行われたお別れパーティーでは，両校学生が交流会の感想について見事なスピーチを行い，親睦を深めると同時に交流会に対する学生の意気込みが感じられた．最後に，来年夏長野

表7　第1回学術交流会日程(1996年)

日程と訪問団構成	概　　要
7月 8日(月)	19:18　訪問団長野駅到着 (KIMPO空港-成田空港-上野経由) 21:30　黒姫山荘着
7月 9日(火)	9:30-10:20　歓迎交流会 10:30-12:00　学生交流会 13:00-15:00　学内見学 15:10-16:00　質疑応答 21:30　黒姫山荘着
7月10日(水)	9:40～　志賀高原 14:00～　市内見学 17:30～　お別れパーティー(学校食堂) 20:00　黒姫山荘着
7月11日(木)	13:00～　京都市内観光 18:00　ハトヤ瑞鳳閣着
7月12日(金)	9:30～　大阪市内観光 15:35　関西国際空港発
訪問団構成	引率教職員6名 参加学生20名 (1年生3名，2年生17名) (男子18名，女子2名)

表8　第1回歓迎交流会概要

行　事	内　　容
歓迎式 9：30-	森　粛校長挨拶 朱浩允(Joo Ho-Yoon)団長挨拶 記念品贈呈他
学生交流会 10：30-	長野高専学生による，長野高専紹介 (テーマ：授業，就職，進学，課外活動，学生会，学生生活) 討論，質疑応答(司会：学生)
学校見学 13：00-	グループ別に2コースで施設見学． 実験などの授業，卒業研究なども見学 質疑応答(見学および本校全般)

高専から天安工業専門大学を訪問することを約束してパーティーを終え，訪問団は京都の観光へと向かった．

なお，長野での宿泊は黒姫山荘(関東信越地区高等専門学校校外合宿研修施設)であったが，施設が不十分なこともあって，訪問団には不自由な思いをさせる結果となった．いくつかの反省事項を以下に記す．

(1)交流会

○本校学生のプレゼンテーションは，もう少し本校の実体が明らかになる工夫が必要だった(各自の話す内容については調整しなかった)．

○本校学生が自分の考えをはっきり言わず，自己主張しない特性があり，韓国の学生との話し合いが深まらない場面があった．例えば，日本の学生は韓国をどのように感じているか，日本人は親切で礼儀正しいと聞いて来たが少し違うような気がするがどうなのか，といった質問に対してほとんど発言できなかった．

○交流会より，質疑応答に近い形になってしまい，お互いの理解を深めるためには今後工夫が必要である．

○歓迎会，交流会では通訳を介して話し合いを行ったが，韓国語，英語などをもっと多く話す気持ちが必要であった．

○事前指導として，韓国を理解すると共に，日本や高専を考えておく必要があった．

(2)今後について

○第1回交流会は庶務課が担当した．第2回からは定常状態の行事ということで学生課が担当することになった。相手校との連絡にかなり時間を必要とするから，訪問，受入共に行事の内容に関する事前準備を早くから始める必要がある．

4．第2回学術交流会の実施

4-1　訪問準備

1997年度は第2回学術交流会が計画され，本校から天安工業専門大学を訪問することになっていた．5月8日には本校の訪問日程案を天安工業専門大学に送付した．その後，両校で日程を調整した結果，8月16日からの3泊4日に決定した，派遣学生は3年生以上とし，各学科3名，合計15名で訪問することになった．本校では5月20日の運営委員会で訪問が了承され，7月7日の運営委員会において訪問日程と訪問団員が了承された．交流会をより活発に行うために，訪問学生の選考に当たって各学科において1人は学生会等のメンバーを含むよう学科に依頼した．訪問団は教職員を含めて表9のように決定し，また，訪問日程は表10のように決定した．このうち，独立記念館と統一展望台の見学は，本校からの希望によって実現したものである．

学生の派遣費用は，後援会と同窓会から援助をしていただいた．この結果，学生の自己負担は全費用の約1/3で済み，多くの学生から参加希望が出された．訪問メンバーが決まった時点で，訪問先での学生のプレゼンテーションの分担等を次のように決め

表9　第2回交流会訪問団名簿

教職員 (5名)	山本行雄(電子情報工学科，教務主事，訪問団長) 永藤壽宮(環境都市工学科) 新保良明(一般科，学生主事補) 岡田　学(機械工学科) 近藤　正(学生課，課長)
学生 (15名)	徳永修平(機械工学科5年，訪問学生リーダー) 今井圭一(機械工学科4年，学生会副会長) 北條智彦(機械工学科4年) 倉科純一(電気工学科5年，学生会長) 岸田鉄平(電気工学科5年，評議委員長) 青木義光(電気工学科4年) 南雲貞美(電子制御工学科5年) 西村勇樹(電子制御工学科3年) 福澤香織(電子情報工学科5年) 宮下健志(電子情報工学科5年) 井出奈央美(電子情報工学科4年) 古川　透(土木工学科5年，工嶺祭実行委員長) 西澤久典(環境都市工学科4年) 宮下英理也(環境都市工学科4年) 渡邊一也(環境都市工学科4年)

た．(1)学生会，(2)工嶺祭，(3)部活動，(4)進学・就職，(5)企業実習．5人の学生がそれぞれ3～5分間程度の長さで，テーマ毎に本校の紹介をし，後の討論の話題提供をすることにした．

訪問は何より，友好を第1とし，そのためには先ず，天安の学生に積極的に話しかけ，会話に心掛けること等を話し合い，また，次の事項の打ち合わせとレクチャーを3回にわたって実施した．

(1)天安工業専門大学の概要と韓国の学校制度．
(2)日本と韓国の歴史概要．
(3)旅行における注意事項．
(4)パスポート取得，旅行保険加入等，外国旅行に必要な手続き．

8月16日朝，浅黄谷校長の見送りを受けて予定どおり長野駅を出発．KIMPO空港で天安工業専門大学の出迎えを受け，バスで天安に向かった．

第1日目の宿泊は天安工業専門大学の寄宿舎(学生寮)であり，これは事前に当方から希望しておいた場所である．寄宿舎の概要は，2階建，部屋数57，1室2名，総定員114名であり，居室は高専の2人部屋とほぼ同じであるが，廊下が広くロビー兼用になっており，また，各階にシャワールームがあるなど，全体に生活面での余裕が感じられた．我々は学生が夏期休暇の間空けてくれた部屋に泊めていただいたわけであるが，ていねいに掃除されていた．もちろん空調はなく，特別に扇風機を準備していただいたが，深夜まで天安の真夏の暑さと戦うはめになったのは当然のことではあった。

表10　1997年度天安工業専門大学訪問日程

月　日	適　用
8月16日(土)	7:00　長野駅集合 7:18　長野駅発(あさま4号) 13:55　成田空港発(KE704) 16:25　ソウルKIMPO空港着 19:30　天安工業専門大学着
8月17日(日)	9:00～12:30　学生交流会および学内見学 14:30～17:30　独立記念館見学 19:30　ソウル教育文化会館着
8月18日(月)	10:00～　統一展望台見学 14:00～　ソウル市内見学(景福宮，民族博物館他) 19:00～　観光(ロッテワールド) 21:00　ソウル教育文化会館着
8月19日(火)	11:00　KIMPO空港発(KE703) 13:00　成田空港着 18:16　長野駅着 18:30　解散

表11　第2回交流会概要

挨　拶	天安工業専門大学申永植学長 長野高専山本行雄教務主事
記念品贈呈	天安工業専門大学から長野高専へ 長野高専から天安工業専門大学へ
学校概要説明	天安工業専門大学より
学生交流会	天安工業専門大学学生会代表2名によるプレゼンテーション 長野高専学生5名によるプレゼンテーション 質疑応答

4-2　天安工業専門大学における交流会

(1)学生交流会

天安工業専門大学との交流会は8月17日9時より本館会議室で始まった．歓迎式に引き続いて学生会交流会が表11の内容で行われた．なお，本校からの記念品はオリンピックグッズ等の他に，機械工学科学生が作成したブックエンドを持参した．

学生交流会は，話題提供の形で両校の学生が学生生活に関連した内容で発表を行い，ひき続いて質疑

写真１　歓迎式における申学長挨拶

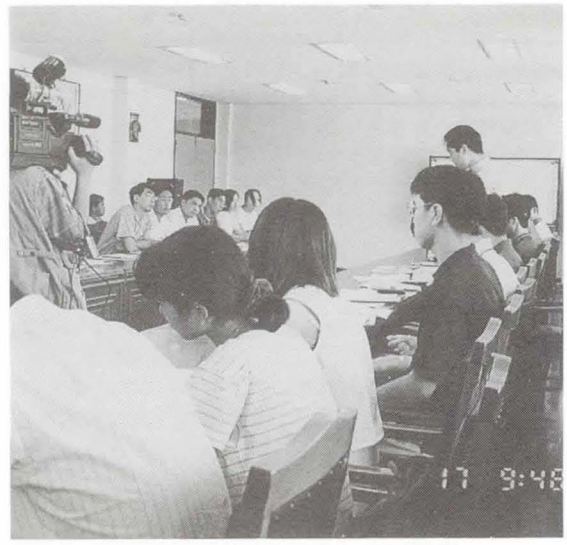

写真２　学生交流会の討論風景

と討論を行った．両校共，普段から学生会等で活動している学生が多かったため，学生会活動，学園祭，学生の意識など具体的な質問が多く出され，各担当者から回答がなされた．活発に意見交換が行われたが，時間の制約もあり，一つのテーマを掘り下げるにはいたらなかった．また，日韓の歴史を考えて，互いに議論が白熱することを暗黙の内に避けたということもある．これについては今後考慮する必要があろうが，交流の初期においては，先ず友好を深めることが大切であり，今回の状態で良かったものと考えている．

全体としては学生会活動，学園生活に関する質疑応答が多かったが，印象に残った討論の要旨の一部を紹介する．天安の学生から，「８月15日は韓国では独立記念日に相当する光復節であるが，日本ではこの日をどのように感じているか．」という質問があった。本校学生から，「８月15日で意識に上るのは先ず，お盆ということである．甲子園の高校野球大会で12時になると，野球を一時中断して黙祷をしているから，その時には戦争が終わった日なんだなと感じる程度で，韓国との関係を考えるということはなかったので申し訳ないと思う．」という意見が出された．それに対して，質問した学生からは，「自分は，日本の若い人がどう感じているか知りたかっただけで，韓国に対して悪いことをしたと感じているか聞きたかったわけではない．もし，そう感じたとしたら，質問の仕方が悪かった．」というコメントがあった。

一方，本校学生からは「韓国では兵役があるが，その期間勉強を中断すると，それ以後の勉強に影響が出るのではないか．」という質問が出された。既に兵役を終えた学生から，「自分は工業高校で３年間電子工学を勉強し，兵役期間中も電子工学を学び，この大学に入って電子工学を勉強している。兵役期間中も専門の勉強ができ，勉強は中断していない．」という体験説明があった。

(2)学校見学会

交流会終了後，天安工業専門大学の14学科を見学した．日曜日にも拘わらず，大勢の先生方が出勤されて説明役を務めて下さった．また，卒業研究に出ている学生とも話をすることができた．実技訓練に重点を置いている学校としては当然のことであるが，技術革新に対応できるよう，相当な熱意を持って機器・教材を準備していることが見てとれた．学校であるから，最新の機器を導入することは不可能であるし，また，基礎技術教育には歴史的な機械の原理を知り操作してみることも大切であるから，これらを調和させて準備しているようであった．しかし，最近の機器の陳腐化の激しさは韓国においても同様であり，新しい機器の購入には苦労している様子が見て取れた．

(3)韓国見学

今回の訪問の目的として，天安工業専門大学との友好を深めることに加えて，韓国の過去と現在に触れることも大切と考えてきた．天安工業専門大学見学後，先ず，天安市にある独立記念館を３時間にわたって自由見学を行ったが，広大な展示館を回りきれなかった．ほとんどの学生は日韓両校の混合グループとなって見学した．日本による植民地時代の展示館は本校学生に両国の歴史を考える上で大きなイ

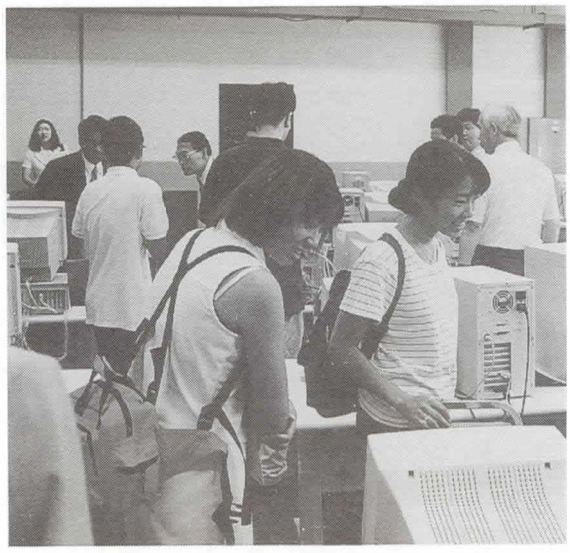

写真３　学校見学-電子計算科実習室

写真４　民族独立記念館見学

ンパクトとなった．

８月15日の光復節直後ということもあって会場は大変なにぎわいを見せており，独立記念館にこのように多数の人が訪れるということにも大きな感慨を受けた．私たちは韓国において，かなりの反日教育が行われているのではないか，この人出もその結果ではないかとという懸念があった．「かつてのような激しい反日教育はなくなり，正しい歴史観によった歴史教育がされるようになっている．」という含みのある返事があった．さらに，「最近の学生は，豊臣秀吉や伊藤博文の名前を聞いても，歴史上の人物という認識しか持たない人が多くなっていて残念です．」とも言っており，我々としては複雑な思いをすることとなった。

翌18日，朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)との国境付近の烏頭山(Odusan)統一展望台を見学．のどかな自然の光景の中に，張り巡らされた鉄条網，警備兵の姿，それも首都ソウルから僅か40～50ｋｍという，日本にいては見ることのできない韓国の現実を実感した．ガイドは，「自分の世代は韓国と北朝鮮が分離してから生まれたから，統一して一つの国家になりたいという希望はあまりない．ただ，同じ民族として助け合ったり，仲良くしたい」という実感を話してくれた。

食は文化を理解する方法の一つと言われるが，朝鮮王朝時代の宮廷料理をテーブルいっぱいに並べられた韓定食，牛の骨付き肉をハサミで切ってもらい野菜を巻いて食べたカルビグイ，韓国式まぜご飯の石鍋ビビンバ，プロギヤや豊富な種類のキムチなど天安工業専門大学の配慮で代表的な韓国料理を味わうことができた．

(4)打ち合わせ事項

交流会終了後の打ち合わせにおいて，天安工業専門大学より幾つかの提案と質問がなされ，以下のような意見の交換があった．

提案：学生相互の交流を一歩進めて，両校の学術刊行物の交換をしたい．

回答：長野高専としても同じ希望を持っている．今後順次両校の刊行物を交換して行きたい．

提案：両校の交換教授制度を発足させたい．また，共同研究を行いたい．

回答：交換教授については帰って校長と相談する．共同研究は可能なものから始めたい．両校とも研究者総覧を発行しているから，互いに共同研究できる相手を探してはどうか．

提案：長野高専浅黄谷新校長に冬休み頃，天安工業専門大学を訪問してもらえないか．

回答：大変有り難い話であるので，帰って校長に伝える．ただし，校長は着任したばかりで日程が混んでいるので，早期訪問は難しいかもしれない．

質問：長野高専でハングル語を授業に取り入れる予定があるか．入れるとすれば可能性はいつごろか．また，国語の田教授が定年を迎えることになり，日本へ教えに行くことも可能であるがどうか．

回答：ハングル語の授業については検討中であるが具体化していない．田教授のお話は大変有り難いことであるが，日本の制度の問題もあるから，帰ってから校長と相談したい．

交流会と見学を終え，8月19日に天安工業専門大学の教職員・学生と別れを惜しみ，ソウルKIMPO空港を後にした．訪問学生が常に積極的に交流を行い，また自主的に行動できたことは今回の交流会の成功の大きな要因になった．

5．あとがき

多くの皆様からのご援助によって，第2回交流会を実り多いものにすることができた．来年度(1998年度)は第3回交流会を本校で行うことが決まっている．今後，天安工業専門大学との交流がさらに活発になり，また，単なる交流だけでなく，教育的にも学術的にもこれまで以上に意義あるものにしていくことが求められている．また，国際交流はこれに留まらずに，さらに範囲を広げる努力が必要になろう．

本報告は，長野高専・天安工業専門大学第2回学術交流会に参加した教職員5名で交流の経過の概要をまとめたものである．今後の国際交流の資料として役立てば幸いである。

謝　辞　今回の学術交流が順調に，また，実り多いものにできたのは，交流の準備，実施を担当された多くの教職員・本校関係者の努力によるものであり，ここに深く感謝の意を表する．特に，今回の訪問に当たり，本校後援会と同窓会から学生の派遣旅費の援助をしていただいたことに深く感謝の意を表する．

学術交流の開始と第1回交流会の開催に際してご尽力いただいた，森肅前校長，佐野秀則前事務部長，高田實三庶務課長，中村博幸前庶務係長(現総務係長)に感謝の意を表する．英語科小澤志朗助教授には天安工業専門大学への連絡文書の英訳をしていただき，また学生課小澤冨士美事務官には文書の準備，訪問学生との連絡に当たっていただいたことを記してお礼申し上げる．交流の準備段階から2回の交流会に至るまで通訳を引き受けて下さった伊善美さん(前信州大学教育学部大学院生，現延世大学教員)に感謝の意を表する．最後に，両校の友好親善のために本校を訪問し，また，我々の訪問を歓迎して下さった申学長をはじめとする天安工業専門大学の皆様にお礼申し上げる。

参考文献

1)天安工業専門大学：学校要覧．(1995.8)
2)天安工業専門大学：国立天安工業専門大学現況．(1997.8)